

す。今年度も日本語作文コンクールへの取り組みとも関連させる中で、日本と中国の若者の意識に焦点を当て、両国の歴史性を踏まえた関係認識を考えていくそんなシンポジウムとして実施しました。

- ③ 2016年度第12回日本語作文コンクール（日本僑報社主催、外務省・在中国日本大使館後援、朝日新聞社など協賛）には、中国全土の省市区の189校から5190編の応募がありました。今回の日本語作文コンクールのテーマは3つあり、（1）訪日中国人、「爆買い」以外にできること （2）私を変えた、日本語教師の教え （3）あの受賞者は今——先輩に学び、そして超えるには？ でした。その結びつきや影響力が益々進化・発展している日中関係をふまえて、中国の若者ならではの主張や、新鮮な本音がうかがえるような意義のあるテーマが選ばれました。協会はこの事業を後援し、毎年最終審査員に加わり、日本中国国際教育交流協会賞（教育賞）2編を選出しています。本年度の教育賞は、郭可純さんの「『サヨナラ』は言わない」と張麗さんの「浪花恋しぐれ」でした。

5. その他の活動

- ① 今年度は理事会を5回、評議員会を2回、監査を1回開催しました。また2016年5月18日（水）に、2016年度評議員選定委員会を開催しました。
- ② 広報関係では、2016年3月に『会報22号』を発行し、「共生力」（随時刊）は、24（4月）・25（10月）号を発行しました。
- ③ 財政確立に向けて、財団創立以来の訪中団等への参加者の名簿を各県の協力を得ながら整理し、一口3,000円の賛助会員を募りました。現在110,000円ほど集まっています。

(2) 2017（平成29）年度事業計画案

協会は今年度も、教育交流派遣事業・支援事業・受入事業の展開へと結ぶことのできる山東省泰安市における「教育交流プロジェクト」の推進等を中心に、草の根教育交流をより深く、多様に発展させることができました。特に今年度初めて取り組んだ、山東省泰安市東平県での「第1回音楽教育交流会」は、大きな成果をあげました。また、教育交流研究等助成事業として第5回となる中国人留学生と日本の教職員家庭との友好を深める「教育交流ホームステイ」事業は、参加した学生の語学等の研修ということばかりでなく、受入れたホストファミリーを基盤に、地域での日中友好、相互理解の輪をも広げています。さらには、第2回教育交流シンポジウムの開催は、日本語作文コンクール後援との関わりを大切にしながら、日中の青年による意見交流を通しながら教育について考えるという新たな取り組みとなり、これまた大きな成果を上げてきています。

協会の持続可能な活動を発展させるため、2017年度（平成29年度）は下記の教育交流事業を推進します。

1. 教育交流・派遣事業

- ① 教育交流プロジェクトとしての、山東省泰安市等平県における音楽教育を通しての教育交流事業への取り組みを踏まえ、第17次訪中団の準備を進めます。

2. 教育交流・受入事業

- ① 山東省泰安市東平県の現場教師を中心とした「第4次宋慶齡基金会教育代表団」を、受入れます。
- ② 教育交流の推進にあたって、静岡県において日中教職員による第2回音楽教育交流会をおこないます。
- ③ 中国教育国際交流協会、中国宋慶齡基金会、教育工会及びその他の教育諸団体が派遣する団体との教育交流、及び学校参観などの受入れ手配等を行います。

3. 教育交流・支援事業

- ① 教育交流プロジェクトにおいて、日本における音楽教育視察研修を通しての東平県への教育支援をおこないます。

4. 教育交流・研究等助成事業

- ① 第6回教育交流ホームステイを実施します。
- ② 教育現場や個人・団体の国際教育交流活動を活発化させるため、第2回日中教育文化交流シンポジウムを開催します。
- ③ 日本語作文コンクール（日本僑報社・日中交流研究所主催）の後援を継続します。

5. 機関運営などに関して

- ① 理事会、評議員会を年2回、監査委員会を年1回、各委員会、事務局会を随時行います。
- ② 年会報24号を発行します。また、『共生力』を随時発行します。ホームページの充実を図ります。
- ③ 事業推進に関する理解を図りながら会員を拡大し、よって財政基盤の確立を図るために、引き続き組織的な取り組みを進めます。

(3) 2017（平成29）年度収支予算

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位：円)

科 目	29年度予算案額	28年度予算額	増 減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
① 基本財産運用収入	7,500	20,000	△ 12,500
基本財産運用収入	7,500	20,000	△ 12,500
② 特定資産運用収入	2,290	3,000	△ 710
(公1) 訪中派遣費用準備資金	160	200	△ 40
(公2) 訪日受入事業準備資金	150	0	150
(公3) 教育交流支援費用準備資金	230	500	△ 270
(公4) 田中一郎記念奨学基金	700	2,000	△ 1,300
(共通) 教育交流積立金	1,050	300	750
③ 会費収入	7,100,000	7,000,000	100,000
1. 団体会費収入	6,900,000	6,800,000	100,000
2. 個人会費収入	100,000	100,000	0
3. 賛助会費収入	100,000	100,000	0
④ 寄付金収入	0	0	0
寄付金収入	0	0	0
特別寄付金収入	0	0	0
⑤ 事業収入	140,000	70,000	70,000
1. 教育交流・派遣事業	0	0	0
2. 教育交流・受入事業	0	0	0
3. 教育交流・支援事業	0	0	0
4. 教育交流・研究助成事業	140,000	70,000	70,000
⑥ 雑収入	0	0	0
雑収入	0	0	0
受取利息	0	0	0
事業活動収入合計	7,249,790	7,093,000	156,790
2. 事業活動支出			
① 事業費支出	7,660,000	6,510,000	1,150,000
(1) 教育交流・派遣事業	1,278,000	2,450,000	△ 1,172,000
1. 役員報酬	240,000	240,000	0
2. 給料手当	330,000	330,000	0
3. 会議費	1,000	1,000	0
4. 交際費	1,000	5,000	△ 4,000
5. 旅費交通費	350,000	1,515,000	△ 1,165,000

科 目	29年度予算案額	28年度予算額	増 減
6. 通信運搬費	30,000	30,000	0
7. 消耗品費	1,000	2,000	△ 1,000
8. 印刷製本費	25,000	25,000	0
9. 賃借料	300,000	300,000	0
10. 委託費	0	1,000	△ 1,000
14. 雑費	0	1,000	△ 1,000
(2) 教育交流・受入事業	2,827,000	646,000	2,181,000
1. 役員報酬	160,000	160,000	0
2. 給料手当	220,000	220,000	0
3. 会議費	1,000	1,000	0
4. 交際費	50,000	1,000	49,000
5. 旅費交通費	1,700,000	15,000	1,685,000
6. 通信運搬費	40,000	20,000	20,000
7. 消耗品費	1,000	2,000	△ 1,000
8. 印刷製本費	20,000	25,000	△ 5,000
9. 賃借料	200,000	200,000	0
10. 委託費	0	1,000	△ 1,000
11. 教育支援費	350,000	0	350,000
12. 研究助成費	15,000	0	15,000
13. 謝金	70,000	0	70,000
14. 雑費	0	1,000	△ 1,000
(3) 教育交流・支援事業	1,638,000	1,655,000	△ 17,000
1. 役員報酬	160,000	160,000	0
2. 給料手当	220,000	220,000	0
3. 会議費	1,000	1,000	0
4. 交際費	1,000	1,000	0
5. 旅費交通費	15,000	15,000	0
6. 通信運搬費	20,000	20,000	0
7. 消耗品費	1,000	2,000	△ 1,000
8. 印刷製本費	10,000	25,000	△ 15,000
9. 賃借料	200,000	200,000	0
10. 委託費	0	1,000	△ 1,000
11. 教育支援費	1,000,000	1,000,000	0
14. 雑費	10,000	10,000	0
(4) 教育交流・研究等助成事業	1,317,000	1,278,000	39,000
1. 役員報酬	160,000	160,000	0
2. 給料手当	220,000	220,000	0
3. 会議費	70,000	10,000	60,000
4. 交際費	1,000	15,000	△ 14,000
5. 旅費交通費	95,000	95,000	0
6. 通信運搬費	20,000	20,000	0
7. 消耗品費	1,000	2,000	△ 1,000
8. 印刷製本費	10,000	25,000	△ 15,000
9. 賃借料	200,000	200,000	0
12. 研究助成費	520,000	520,000	0
13. 謝金	20,000	10,000	10,000
14. 雑費	0	1,000	△ 1,000
共通	600,000	481,000	119,000
3. 会議費	10,000	10,000	0
4. 交際費	10,000	10,000	0
5. 旅費交通費	100,000	100,000	0
6. 通信運搬費	180,000	70,000	110,000
7. 消耗品費	20,000	16,000	4,000

科 目	29年度予算案額	28年度予算額	増 減
8. 印刷製本費	250,000	240,000	10,000
10. 委託費	30,000	35,000	△ 5,000
② 法人費支出	2,701,000	2,441,000	260,000
1. 役員手当報酬支出	240,000	240,000	0
2. 給料手当支出	330,000	330,000	0
3. 法定福利費支出	5,000	6,000	△ 1,000
4. 会議費支出	70,000	100,000	△ 30,000
5. 交際費支出	50,000	100,000	△ 50,000
6. 旅費交通費支出	400,000	400,000	0
7. 通信運搬費支出	30,000	30,000	0
8. 消耗什器備品費支出	10,000	20,000	△ 10,000
9. 消耗品費支出	10,000	20,000	△ 10,000
10. 印刷製本費支出	1,000	10,000	△ 9,000
11. 賃借料支出	250,000	350,000	△ 100,000
12. 租税公課支出	5,000	5,000	0
13. 委託料支出	800,000	800,000	0
14. 雑支出	500,000	30,000	470,000
事業活動支出合計	10,361,000	8,951,000	1,410,000
事業活動収支差額	△ 3,111,210	△ 1,858,000	△ 1,253,210
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
① 基本財産変更差額収入	0	0	0
基本財産変更差額収入	0	0	0
② 特定資産取崩収入	3,520,000	14,800,000	△ 11,280,000
(公1) 訪中派遣費用準備資金	0	1,500,000	△ 1,500,000
(公2) 訪日受入事業準備資金	2,000,000	2,080,000	△ 80,000
(公3) 教育交流支援費用準備資金	1,000,000	3,800,000	△ 2,800,000
(公4) 田中一郎記念奨学基金	520,000	520,000	0
(共通) 教育交流積立金	0	6,900,000	△ 6,900,000
投資活動収入計	3,520,000	14,800,000	△ 11,280,000
2. 投資活動支出			
① 特定資産取得支出	500,000	12,780,000	△ 12,280,000
(公1) 訪中派遣費用準備資金	0	3,700,000	△ 3,700,000
(公2) 訪日受入事業準備資金	0	2,000,000	△ 2,000,000
(公3) 教育交流支援費用準備資金	0	4,000,000	△ 4,000,000
(公4) 田中一郎記念奨学基金	0	2,080,000	△ 2,080,000
(共通) 教育交流積立金	500,000	1,000,000	△ 500,000
② 固定資産取得支出	0	0	0
什器備品購入支出	0	0	0
投資活動支出計	500,000	12,780,000	△ 12,280,000
投資活動収支差額	3,020,000	2,020,000	1,000,000
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出	500,000	800,000	△ 300,000
当期収支差額	△ 591,210	△ 638,000	46,790
前期繰越収支差額	2,096,970	2,734,970	△ 638,000
次期繰越収支差額	1,505,760	2,096,970	△ 591,210

(4) 2017 (平成29) 年度役員・評議員名簿

公益財団法人日本中国国際教育交流協会 理事・評議員・監査・顧問

< 2018 (平成30) 年2月1日現在 >

理事 (7名)

赤岡直人 (業務執行理事)
朽見誠二
黒田文男 (代表理事)
鈴木伸昭
芹沢秀幸
初岡昌一郎
前嶋徳男

評議員 (7名)

井上定彦
金丸徹
小山悟
鈴木寛
別所勝也
山口晃
山中小白

監事 (3名)

祝迫規之
中村武志
丸光昭

顧問 (2名)

輿石東
生井榮一

協会の歩み

設立 1991年1月
1992年財団法人認可
2010年8月5日公益財団法人認定
公益財団法人移行 2010年8月9日
創立者 田中 一郎 (初代理事長)
理事長 生井 榮一 (第2代)
代表理事 黒田 文男 (第3代2010年4月～現在)

教育交流・派遣事業

1992 私立学校教職員訪中団 (北京、大連)、第1次教育訪中団 (北京、杭州。李鉄映国家教育委員会主任と会見)
1993 第2次教育訪中団 (北京、瀋陽、撫順、大連。倪全人代常務副委員長会見)
1994 第3次訪中団 (昆明、成都)
1995 第4次教育訪中団 (ウルムチ、トルファン)、協会理事訪中団 (北京。国家教育委員会、中国教育国際交流協会訪問)
1996 第5次教育訪中団 (済南・青島、蘇州)
1997 第6次教育訪中団 (日中国交正常化25周年、財団設立5周年記念北京、天津、常州、蘇州。朱国家教育委員会主任と会見)
1998 第7次教育訪中団 (北京、ハルビン、長春)
1999 第8次教育訪中団 (南京、杭州、上海)
2000 第9次教育訪中団 (昆明、大理、麗江)
2001 第10次教育訪中団 (西寧、西安)
2002 第11次教育訪中団 (日中国交正常化25周年記念。南寧、桂林)
2004 第12次教育訪中団 (北京、承德)
2006 第13次教育訪中団 (北京、天津)
2007 第1期安東自由大学参加団 (韓国・安東市)
2008 第14次教育訪中団 (北京、河北省易県)
第2期安東自由大学参加団 (韓国・安東、ソウル)
2009 第3期安東自由大学参加団 (韓国・安東、ソウル)
2010 第15次教育訪中団 (北京、河北省易県)
2011 第5期安東自由大学参加団 (韓国・安東、ソウル)
2012 第6期安東自由大学参加団 (韓国・安東、大邱、ソウル)
2013 第7期安東自由大学参加団 (韓国・安東、ソウル)
2014 第16次教育訪中団 (上海・南京)
2015 視察研修訪中団 (北京・泰安市東平県)
2016 第1回日中音楽教育交流会 (北京・泰安市東平県)

教育交流・受入事業

1992 中国教職員訪日代表团 (東京、三重、神奈川、愛知、茨城、山梨、千葉、静岡)
1993 寧波市訪日団 (東京、茨城、群馬、千葉)、常州市訪日団 (兵庫、福井、三重)、寧夏自治区訪日団 (愛知、富山、新潟)、中国教育国際交流代表团 (東京、神奈川、静岡、神奈川、京都、奈良、兵庫、大阪。赤松文相と会談)
1994 江蘇省小学校長訪日団 (神奈川、山梨、静岡)

1995 湖南省訪日団 (愛知、静岡、三重)、蘇州市訪日団 (千葉、神奈川、山梨)
1996 モンゴル赤峰市職業教育代表团 (東京、北海道)、常州市訪日団 (千葉、山梨、東京) 卒業生就職指導訪日団
1997 日中国交正常化25周年、財団設立5周年記念教育交流訪日団 (東京、愛知、三重)
1998 蘇州市・昆山市訪日団 (東京、福井、千葉) 常州市訪日団 (東京、山梨、三重、京都、奈良、大阪)
1999 北京市第二実験小学校訪日団 (東京、神奈川、京都、大阪) 中国優秀教師訪日団 (東京、静岡)
2000 雲南教育学会訪日団 (東京、山梨、千葉)
2001 中国教育交流訪日団 (東京、山梨、奈良、京都、大阪)
2002 中国特殊教育工作者代表团 (東京、三重)
2003 北京市崇文区教育関係者訪日団 (東京、山梨)
2006 協会設立15周年記念中国教育国際交流訪日団 (東京) 遼寧省体育訪日団 (東京、神奈川、滋賀、大阪)
2008 中国宋慶齡基金会教育代表团 (第1次) (東京、静岡、愛知、京都)
2009 中国宋慶齡基金会李寧秘書長、協会を訪問
2011 協会設立20周年記念中国教育国際交流協会訪日団、中国宋慶齡基金会教育代表团 (第2次) (東京、神奈川)
2012 中国宋慶齡基金会唐開生副主席、協会を訪問
2013 第3次宋慶齡基金会教育交流代表团 (三重、京都)
2017 第4次宋慶齡基金会教育交流代表团 (静岡) 第2回日中音楽教育交流会 (静岡)

教育交流・支援事業

1996 雲南省災害教育復興資金 (100万円) を贈る。
1998 長江水害見舞金 (100万円) を中国教育国際交流協会を通じて贈る。松花江水害見舞金 (50万円) を黒龍江省教育委員会を通じて贈る。
2006 協会代表、中国宋慶齡基金会、河北省易県を訪問。
2007 生井理事長が中国宋慶齡基金会胡啓立主席と会談。河北省易県小学校へ机椅子600セット及び電子キーボード40台 (総額200万円) の教育支援及び音楽教師養成セミナー支援。協定書締結。
2008 四川大地震に対し、見舞金 (100万円) を中国教育国際交流協会を通じ四川教育国際交流協会へ。同じく見舞金 (50万円) を宋慶齡基金会を通じて贈る。また、ミャンマーサイクロン被害見舞金 (50万円) をビルマ日本事務所を通じて送る。日本教育公務員共済会より易県教育支援に関し、本部奨励金 (100万円) を受ける。
2009 第1回音楽教師養成セミナー参加 (北京、河北省易県)
2010 第2回音楽教師養成セミナー支援・参加 (70万円)
2011 第3回音楽教師養成セミナー支援・参加 (100万円)。東日本大震災支援「こども音楽再生基金」へ寄附 (100万円)。
2012 協会代表 (黒田代表理事) 以下4名が中国宋慶齡基金会 (李寧秘書長)、中国教育国際交流協会 (林佐平副秘書長)、中国教育科学文化衛生体育工会 (万民東主

- 席)を訪問。第4回音楽教師養成セミナー支援(250万円)。
- 2013 第5回音楽教師養成セミナー支援(200万円)(黒田代表理事、会員代表ら8名参加)。
- 2014 協会代表(黒田理事長)以下3名が中国宋慶齡基金会(井頓泉副主席)、中国教科文衛體工會全國委員會(白立文國際代表)を訪問。第5回音楽教師養成セミナー支援(100万円)送金。
- 2015 協会代表(黒田理事長)以下3名が中国宋慶齡基金会(井頓泉副主席)を訪問。山東省泰安市東平県音楽教育支援(100万円)。
- 2016 協会代表(黒田理事長)以下6名が中国宋慶齡基金会(井頓泉副主席)を訪問。山東省泰安市東平県音楽教育支援(100万円)。
- 2017 山東省泰安市東平県音楽教育支援(100万円)。

教育交流・研究等助成事業

- 1995 中国人日本留学生に奨学奨励金制度を設ける
- 1997 協会設立5周年記念教育交流集会・レセプション(東京)
- 1999 韓国中学校教育協議会名誉会長嚴圭白博士と田中会長・理事長会見
- 2001 中国教育国際交流協会20周年式典で、田中会長・理事長が顧問に就任。協会設立10周年記念教育交流集会(文部省後援、東京)
- 2002 日中国交正常化30周年記念教育交流集会・レセプション(文科省・中国大使館教育処後援、東京)
- 2006 協会設立15周年記念教育交流集会・レセプション(文部省・中国大使館教育処後援、東京)
- 2007 第3回「中国人の日本語作文コンクール」を後援、教育賞を提供。
- 2008 第4回「中国人の日本語作文コンクール」を後援、教育賞を提供。
- 2009 第5回「中国人の日本語作文コンクール」後援。
- 2010 第6回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
- 2011 第7回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。フジ国際語学院スピーチコンテンス協賛。
- 2012 第1回教育交流ホームステイ(in山梨)実施。第8回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。フジ国際語学院スピーチコンテンス協賛。
- 2013 第2回教育交流ホームステイ(in山梨)。第9回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
- 2014 第3回教育交流ホームステイ(in山梨)。第10回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
- 2015 第4回教育交流ホームステイ(in山梨)。第11回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第1回教育交流シンポジウム開催。
- 2016 第5回教育交流ホームステイ(in千葉)。第12回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第2回教育交流シンポジウム開催。
- 2017 第6回教育交流ホームステイ(in千葉)。第13回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第3回教育交流シンポジウム開催。(2018年3月現在)

公益財団法人日本中国国際教育交流協会とは

◆日本中国国際教育交流協会は

1991年に創立。東アジアの豊かな未来を実現するために、日本と中国を柱として、教育交流事業を進めています。子どもや教育の持つ「共生力」に限りない期待を寄せています。

◆公益財団法人とは

広く公益に資する事業を進めている法人として2010年内閣府から認定を受けました。公益法人は、寄付金に税はかからないので、支援がしやすいのが特徴です。

◆教育交流は4つの分野で

1 派遣

教育に関心のある人たちによって構成された協会が派遣する団で、学校見学、授業の交流、子どもや教職員との交流を行い、未来の東アジアを地球規模で考えます。

2 受入

諸外国からの教育関係の訪日団を受け入れ、学校訪問等を行い、教職員や子どもたちとの交流を深めています。訪日団の希望に沿って、教育現場の協力を得た研修への参加ができます。

3 支援

教育困難地域の学校に、机や椅子などの学校備品のほか、電子キーボードなどの教育機器を送っています。また送った機器を使って授業が進められるための研修を支援しています。支援を受け入れる団体は、行政または信頼のおける団体です。

4 研究等助成

田中一郎奨学基金を設立し、東アジアを中心に国際的な教育交流を担う人材を育成します。また、「日本語作文コンクール」「教育交流ホームステイ」などを通して、海外や日本に日本語を勉強している若者の学習を助成しています。

◆東アジアでのこの素敵な教育交流への参加をお待ちします

個人会員	年会費	一口	5,000円
団体会員	年会費	一口	10,000円
賛助会員	年会費	一口	3,000円
寄付金	随時		

会員、寄附をされた団体・個人には、協会の年会報、「共生力」(随時発行の会報)、海外派遣への先行連絡、イベントのご案内など差し上げます。

【編集後記】

今年度も、「日中を中心とした東アジアから、さらには世界へと、教育交流の確かな実績を築いていこう。」「人と人のつながりを大切に、温かな血の通う民間交流を進めていこう。」の志の元に、取り組みを行って参りました。

山東省泰安市東平県における、中国宋慶齡基金会との「共同プロジェクト(音楽教育交流による派遣・受入・支援事業)」も3年目が終わりました。第4次宋慶齡基金会教育交流代表団(東平県音楽教師を主体とする)の受入・第2回日中音楽教育交流会の静岡県磐田市での実施は、昨年度にもまして音楽というまさに万国共通の「言葉」が、より一層日中の教師・教育関係者を結びつけ、共に歩もうという意識を育んだように感じました。また、東平県の小学校への音楽教育支援(楽器等の寄贈)も、大きな成果を上げつつあります。研究等助成事業として行っている「第6回教育交流ホームステイ」「第3回日中教育文化交流シンポジウム」「第13回日本語作文コンクール」の取り組みも、安定した実績を積み上げつつあると思います。

第24号の会報として、この1年間の歩みをまとめました。是非ともご覧いただき、多くの建設的なご意見と、活動・取り組みへのご協力を、今後とも当協会にいただけますよう、よろしくお願い致します。

■公益財団法人日本中国国際教育交流協会【会報第24号】

2018年(平成30年)3月15日発行

発行人…黒田文男 表紙題字…田中一郎(創立者) 印刷…(株)アートプリント
〒400-0031 山梨県甲府市丸の内2-32-16 甲府丸の内マンション302

Tel.055-269-6533 Fax.055-269-6534

HP: <http://ajciee.or.jp/>